

阿見町と茨城県立医療大学の 地域貢献研究センター・レポート

連携協力協定締結式

阿見町と茨城県立医療大学の連携協力協定締結式

2008年2月15日（金）に、阿見町役場全員協議会室において、阿見町と茨城県立医療大学の連携協力協定締結式が執り行われた。県庁から泉陽子保健福祉部長をお迎えし、川田弘二町長と小山哲夫学長が協定書に署名して、連携協力協定を締結した。

協定書署名

協定締結式では、阿見町川田弘二町長と茨城県立医療大学小山哲夫学長が、連携協力に関する協定書に署名した。その後、協定締結を記念して、川田町長と小山学長が握手し、協定締結を祝った。



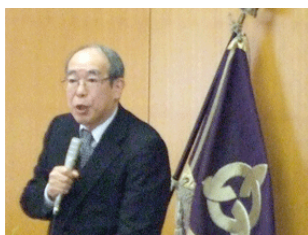
ごあいさつ 川田弘二（阿見町長）



本日ここに、貴大学と相互の緊密な連携・協力のもと、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与していくことを目的とした連携協力協定が締結できました

ことは、当町にとりまして誠に喜ばしく、小山学長をはじめ県立医療大学の関係者の皆様に心からお礼と感謝を申し上げます。さて、現在は、誰もが健康で安心できる保健・医療・福祉体制の整備を図ることが極めて大きな課題となっており、地域と大学の連携は地域振興策の一つとして有効であると考えております。県立医療大学との間におきましては、これまで調査研究の委託や各種委員会委員、講習会等への人材派遣など、様々な形で連携・協力を進めてまいりましたが、今回その関係をさらに発展させ、様々な分野の振興を図るため、双方の組織全体を包括する形での相互連携・協力に関する協定締結となりました。これを契機とした新たな取り組みとしては、健康づくりプランの中間評価、健康調査データの分析による医療費抑制に向けた取り組み、高齢者の転倒防止に向けたサポート事業などを実施していく考えでおります。今後は、多様化・高度化する地域課題の解決に向けた具体的な取り組みがいつそう促進されていくものと大いに期待しております。本日の協定の締結により、双方の益々の発展と、阿見町が進めるまちづくりに大きく貢献していただくことを祈念し、挨拶いたします。

ごあいさつ 小山哲夫（茨城県立医療大学長）



本日ここに連携協力協定を締結することができたことは、教育・研究に加え地域貢献にも積極的に問い組むこととしている本学にとって大変喜ばしく、川田町長をはじめ、阿見町の関係者の皆様に心から感謝申し上げるところでございます。本学と阿見町とは、これまでも本学の教員が阿見町の保健・医療・福祉の分野で審議会の委員として参画するなど様々な連携を行ってきました。また、大学を取り巻く環境も大きく変化し、広く社会に貢献することが求められております。これらのことから、これまでの関係をさらに深め、開学以来本学が蓄積してきた知の財産を活用して、阿見町と相互に連携協力し、地域の発展、人材の育成を図ることを目的として、連携協力協定を締結することとなりました。この協定締結を契機とし、いくつかの事業が本学への受託研究という形で行われることとなりました。この研究の成果を還元することにより、阿見町の保健・医療・福祉にさらに貢献することができると確信しております。また、茨城県唯一の県立の大学としては、阿見町との連携で得た知見を先進事例として、広く茨城県の保健・医療・福祉の向上につなげ、地域の発展に寄与していきたいと考えているところであります。本日の連携協力協定の締結により、双方の益々の発展を祈念いたしまして、私の挨拶いたします。

ごあいさつ 泉 陽子（茨城県保健福祉部長）



茨城県立医療大学の設置者である茨城県を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。本日ここに連携協力協定が締結できましたことは県といたしましても誠に喜ばしく、川田町長さんをはじめ関係者の皆様のご尽力に対し、深く感謝申し上げます。さて、阿見町の県園芸試験場跡地に県立医療大学が開学したのは平成7年4月1日のことでした。設立の目的は、保健・医療・福祉の分野における質の高い技術者の養成や研究活動、そして地域に貢献していくことです。開学以来、町と大学はお互いに施設を利用したり、大学教員が町の委員として計画づくりなどに参画したり、また川田町長さんには医療大学運営協議会の委員として貴重なご意見をいただくなど、目に見える形で連携・協力をしてまいりました。そして先程、町と大学が連携協定の締結をしたことは、誠に意義深いものと思っております。急速な少子高齢化社会が進行している今日、県民誰もが安心して暮らすことができる社会を実現していくためには地域での取り組みがますます重要となってきます。先程来話が出ておりました町と大学が連携したこれまでの取り組み、そして新たな取り組みが先進的な事例となり、この阿見町から全国に向け発信できますことを期待しております。今日の協定締結が連携協力をさらに強固なものとし、阿見町と医療大学がともに発展していきますことを祈念いたしまして、私の挨拶いたします。

■ 新たな連携事業（平成20年度委託研究）

（1）「あみ健康づくりプラン21」の評価と新たな展開

平成16年3月に策定した「あみ健康づくりプラン21」が5年を経過し、中間評価と必要に応じ見直しを行うため、町民の健康調査を実施し、前回の調査結果と対比させ、プランで設定している目標値の達成状況を把握する。また、調査結果に基づいて、5年後の目標値の微調整を行う。

（2）高齢者の健康づくりの実践と医療費の関連

高齢者の医療費を抑制するためには、まず第一に、日常生活習慣の改善など健康づくりの取り組みが重要である。これまで継続的に実施された65歳以上の高齢者を対象とした健康調査データと国民健康保険の医療費データをリンクさせることにより、日常生活習慣の状況が町民の高齢者医療費にどのように関連しているかを分析する。分析結果をもとに、健康づくりをさらに積極的に進めることによる医療費抑制効果について検討を行う。

（3）高齢者の転倒予防に向けたサポート事業

現在、町の介護予防事業の一つである「つるかめ教室」（転倒骨折・認知症予防教室）を開催している地区の中から、モデルとなる地区を選定し、高齢者の転倒予防に向けたサポート事業を実施することにより、より効果的な介護予防事業の推進を図る。

■ これまでのおもな連携事業

(1) 介護データベースの構築

要介護認定のデータベースを構築し、今後の介護需要の予測や介護予防施策の方向性を見だし、効果的・効率的な施策の実施により、介護需要の圧縮を図る。

(2) 健康教室・体力測定

ふれあい地区館活動の一環として、健康教室や講演会を開催している。また、君原小学校区では平成10年度から、中央公民館では平成17年度から、毎年継続的に高齢者体力測定を実施し、参加者に対して個別のアドバイスをを行っている。さらに、平成18年度からは、第二小学校区の中老年者を対象に体力測定を実施し、体力評価を行っている。

(3) 骨密度調査

女性を対象に6カ月毎に超音波による骨密度測定と生活調査を実施している。また、同時に個別の栄養指導や集団での運動指導を行っている。

(4) 精神デイケア事業

軽度の精神障害者に対し、レクリエーションや創作活動などの集団活動を通して、社会生活の適応性向上を目指したデイケア事業を支援している。

(5) 委員会委員等

行政改革推進員、いきいき学びの町阿見推進会議、障害者基本計画推進会議委員、健康づくり推進委員会委員、就学指導委員会委員、社会福祉協議会理事など様々な委員会の委員等を務め、行政活動の運営に協力している。

■ 締結式列席者一覧

◎茨城県立医療大学

小山哲夫（学長）、泉陽子（茨城県保健福祉部長）、櫻井清一（事務局長）、永田博司（副学長）、石川演美（付属病院長）、小池和子（学生部長）、伊東元（附属図書館長）、岩井浩一（地域貢献研究センター運営委員長）、市村久美子（同センター運営委員）、居村茂幸（同センター運営委員）、山口直人（同センター運営委員）、坪井章雄（同センター運営委員）、内山利光（副参事兼総務課長）

◎阿見町

川田弘二（町長）、久保谷実（町議会議員）、大崎誠（副町長）、大崎治美（教育委員会教育長）、木鉛章（町消防長）、糸賀富士夫（町長公室長）、石井定夫（総務部長）、瀬尾房雄（民生部長）、坪田匡弘（経済建設部長）、渡辺清一（都市開発部長）、松本功志（教育委員会教育次長）、川村忠男（町長公室企画課長）

◎事務局

鈴木光彦（医療大総務課）、横町勉（医療大総務課）、坂本敬一郎（医療大総務課）、建石智久（阿見町町長公室企画課）、青山広美（阿見町町長公室企画課）

茨城県立医療大学・地域貢献研究センター



茨城県立医療大学は、建学の理念に基づいて、開学以来、質の高い医療専門職の育成のほかに、保健・医療・福祉に関する知識と技術の創造と蓄積を行ってきました。そして、開学10周年を迎えた際に、これらの本学の資源を地域に還元することを目的として地域貢献研究センターを設置いたしました。

地域貢献研究センターは、住民、行政、医療機関、関係教育・学術団体などと連携しつつ、地域における保健・医療・福祉に関する課題について計画的な教育・研究を行い、科学的根拠に基づく解析結果や問題解決の方向性を示すことによって、地域への貢献を図っています。

【事務局】

茨城県立医療大学総務課

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2 電話: 029-840-2855